

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
国語	論理国語	2	一斉	共通	2

教科書（発行所）	精選論理国語（東京書籍）
教科書以外の教材	1 常用漢字ダブルクリア（尚文出版）

目 標		1 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 2 身近にある問題や社会の課題について自ら問いをたてて考える力を育成する。		
	学期	学習事項	学習内容	考查等
学習計画	1 学期	- 読む【読者】「ミロのヴィーナス」 - 読む【論理の力】「論理とは何か」 - 読む【言語】「相手依存の自己規定」 - 読む【論理の力】「質問する力」 - 書く【探究】「資料を整理しテーマを吟味する」	・具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。 ・書かれている内容を理解し、「論理的」とはということかを学ぶ。 ・具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。 ・質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。 ・資料を集めてさまざまな観点から整理し、テーマを吟味する。	課題考查 中間考查 期末考查
	2 学期	- 読む【人間】「分人とは何か」 - 読む【論理の力】「つなげる力」 - 読む【社会】『リスク』と『リスク社会』 - 読む【環境】『環境』とは何か - 書く【探究】「仮説を立てて検証する」	・提示された問いに注意して筆者の主張を理解し、自分に引き寄せて考える。 ・「接続関係」について学び、文章を論理的に理解する力を養う。 ・対比に注意して論の展開をつかみ、「リスク」という概念について理解を深める。 ・「環世界」などの概念に注意しながら筆者の主張を理解、環境について理解を深める。 ・仮説を立てて検証し、検証過程を文章にまとめる。	課題考查 中間考查 期末考查
	3 学期	- 読む【近代】『である』ことと『する』こと - 読む【社会】「消費されるスポーツ」 - 読む【芸術】「日本人の美意識」 - 読む【メディア】「地図の想像力」 - 書く【言葉のトレーニング】「地方都市を考える」	・例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。 ・筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。 ・図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。 ・提示されている地図に注目して論の展開を押さえ、地図に対する筆者の考えを読み取る。 ・統計資料をもとに地方都市の在り方を論じた文章を読み、説得力のある根拠の示し方を理解する。	課題考查 学年末考查
授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等		1 提出物・宿題の期限を必ず守る。 2 授業中は必ず辞書を持参し、こまめに辞書を引く習慣をつけ、語彙力をつける。 3 ノートやプリントは板書をそのまま写すだけで終わらず、説明を集中して聞き、メモを取ったり、アンダーラインを引いたりする習慣をつける。ノートが自分の参考書になるので、後から復習で活用できるように丁寧にまとめる。 4 1年間の学習を通して言語感覚を磨き、思考力や自ら進んで表現する姿勢を養おう。		

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	定期考查・課題確認テスト（小テスト）・課題レポート・日々題・週課題、授業に臨む姿勢や意欲及び自己評価を総合的に評価します。 いわゆるペーパーテストのみの点数がすべてではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価します。よって、テスト以外の普段の取り組みも評価の対象になります。知識・技能にもとづいた思考力・判断力・表現力も問うので、普段から、本質的な力を磨くようにしてください。		